





庄内川の河口をめざして

去年は土岐川の上流を調べました。多治見からスタートして、上流に向かいながら支流との合流する所や、川の周りにある施設などを調べながら源流まで行きました。今度は土岐川の下流はなにがあるかを見に行きたいと思います。



国土交通省 中部地方整備局
庄内川河川事務所 土岐川流域図より

土岐川は愛知県に入ると庄内川になります。去年は古虎渓から上流に向かったので今度はここから下流に向かいます。

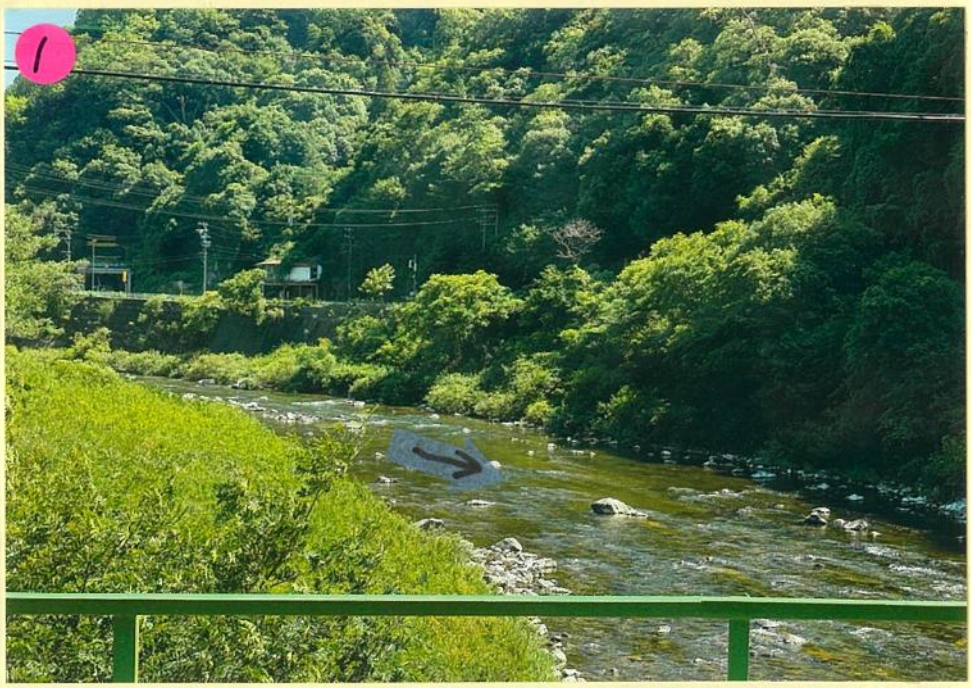
上流





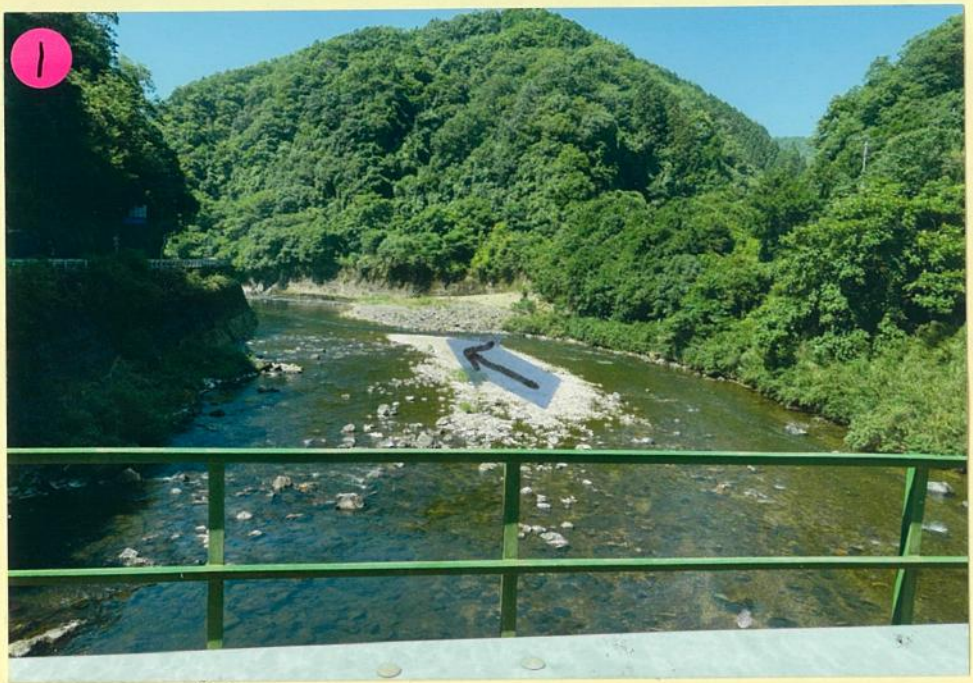
古虎渓木橋

1



橋から上流を見たところ

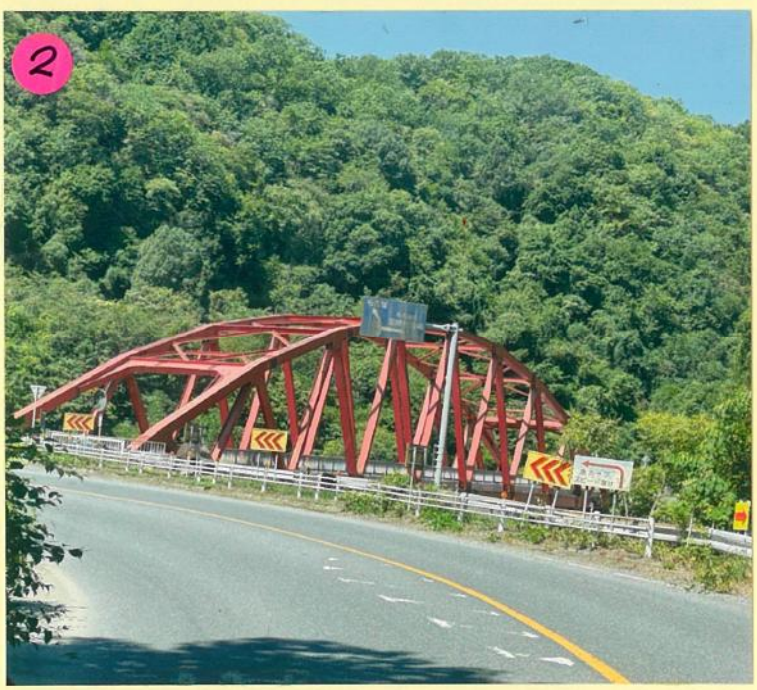
石がゴロゴロあって周りは草がタクさんだ。



橋から下流を見たところ

下流には中州ができているので流れがゆるやかかもしれない!!
この先のカーブのあたりが愛知県と岐阜県の県境でこの先が庄内川と呼ばれている。





諏訪大橋

1から2までは右岸が多治見市、左岸が瀬戸市で、2からは右岸が春日井市、左岸が瀬戸市になっていて川が市や県の分かれ目になっている。

城嶺橋

しろがねはし



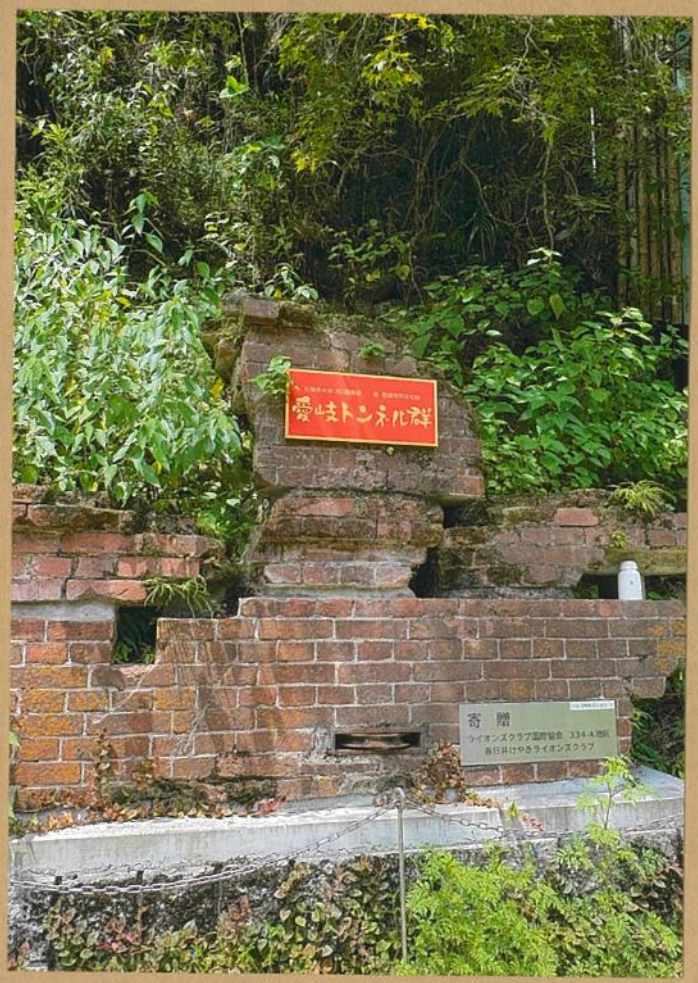
古虎渓のあたりと比べてゴツゴツした岩の間を川が流れている。川の幅がせまくて流れは早そうだった。



定光寺駅の近くには
廃旅館があった。
このあたりは景色が
良くて、昔はにぎわって
いた。



諏訪大橋と城嶺橋の間の川沿いに「愛岐トンネル群」という看板を見つけた。
玉野えん堤の近くにその入り口があった。
JR中央線の横に旧国鉄中央線の廃線跡があって、レンガのトンネルが13基 昔のまま残っている。
そのうち3~6号の4基1.7kmの区間が年に2回一般公開されている。



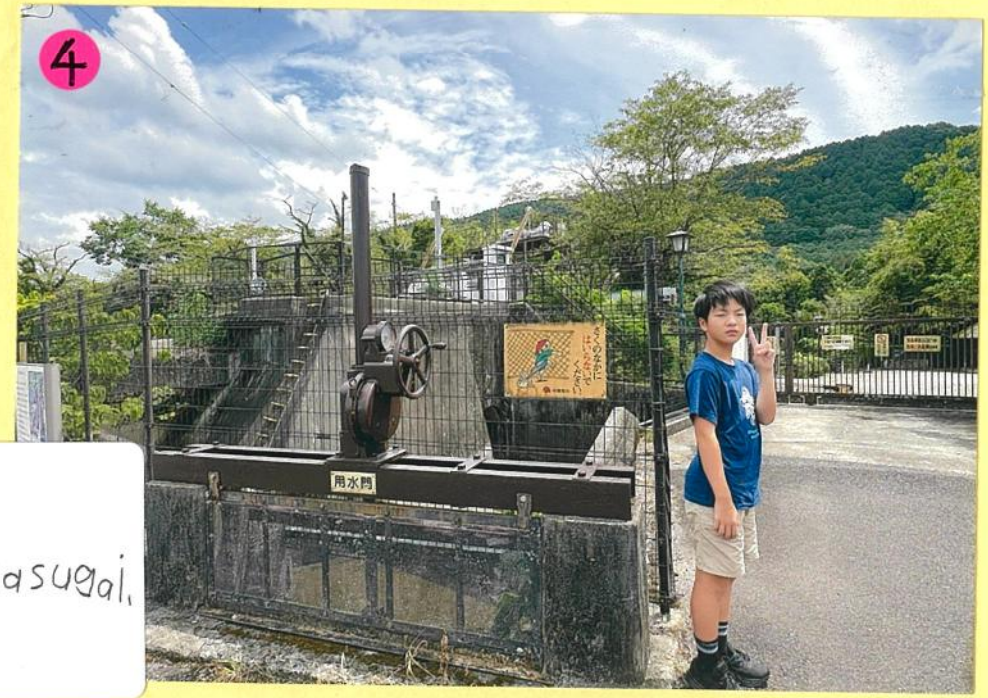
玉里予ん堤





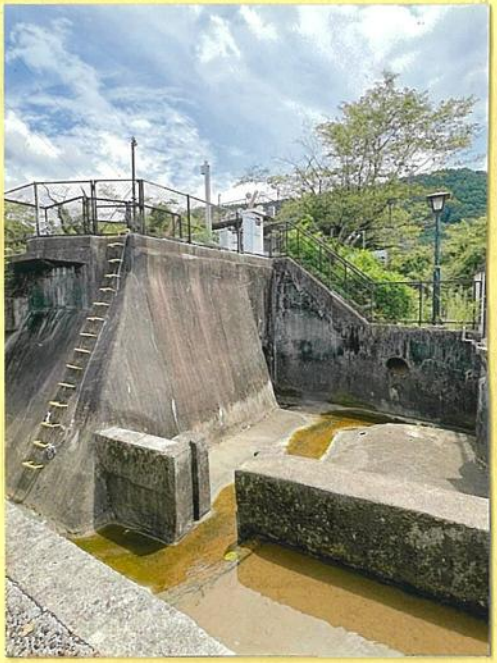
定光寺駅から上流へ向かうと、玉野ん堤があった。
ん堤で庄内川の水を取り入れて、導水路へ流します。
取り入れられた水は導水路を通って、約2km先の玉野水力発電所まで流れて行く。
玉野用水は水力発電の他に農業用水としても使われている。

玉野水力発電所

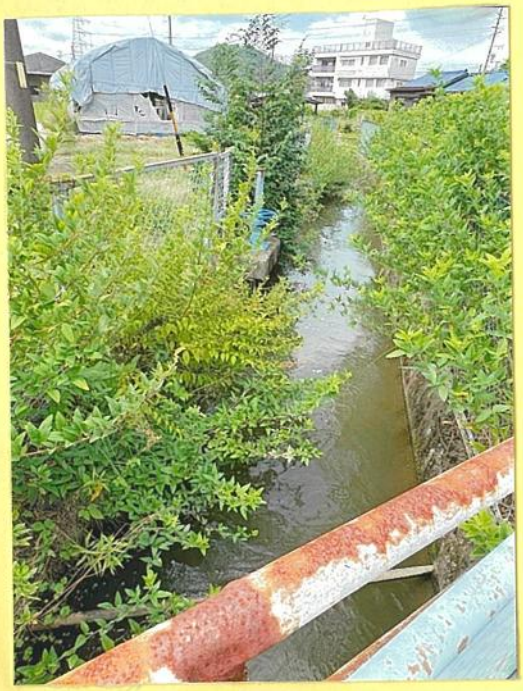


参考資料
https://www.city.kasugai.lg.jp
春日井市ホームページ





かんがい用水路





玉野久ん堤で取り入れた水は導水路を通って発電所まで流れていく。発電所にある水車が回ることによって発電機が回転して電気がおこる。



中流 1



東谷橋



橋から上流を見たところ。
川の幅は広くて中洲ができていて、草が生えている。

水色のアーチ型の橋があって「愛知県上水道 庄内川水管橋」と書かれていた。水管橋とは、水道管を川や道路を横断されるために作られた橋のことである。



橋から下流を見たところ。
川幅が少し狭くなっていた。
川の周りには家などの建物が多く見える。

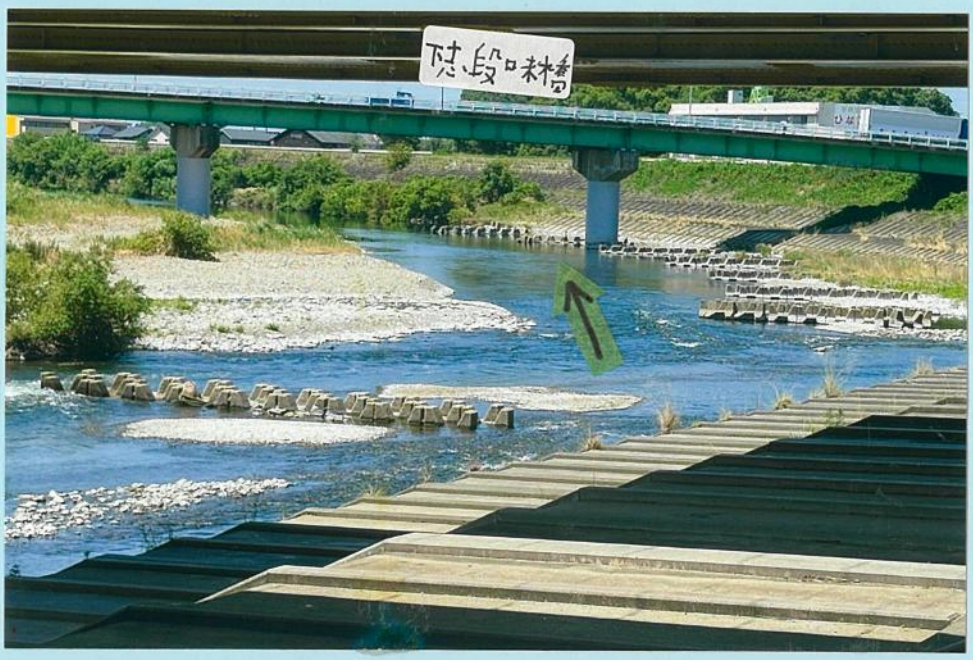
このあたりは右岸が春日井市
左岸が名古屋市守山区に
なっている。



下志段味橋

庄内川と内津川が合流している。
草がいっぱいで川が見にくかった。
川幅は広くて浅い所もあって川遊びをしている人もいた。





カーブの内側に砂利がたまっている

排水樋管







吉根橋

川幅は広くて
深そうだった。
川の向こうの
河川敷には
野球のグラウンド
があった。

3



上条用水は庄内川
から水を取り入れて
農業用水として使わ
れている。



3 上条用水取水せき
上条用水樋門









この辺りの河川敷は広くて畑やグラウンドがたくさんあった。

熊野桜佐ポンプ場



この先で庄内川と合流する

普段雨水は自然に流れていきますが大雨時等は自然に流すことができないためポンプ場の機械を使って川に雨水を排水します。
自動除じん機で雨水といっしょに流れてきたごみや木片などを取り除きます。雨水ポンプで雨水を川へ排水します。
熊野桜佐ポンプ場を出た水は、排水樋門を通って川へ流れていきます。



https://www.city.kasugai.lg.jp
春日井市ホームページより

5

松河戸排水樋門



6

松河戸排水樋管



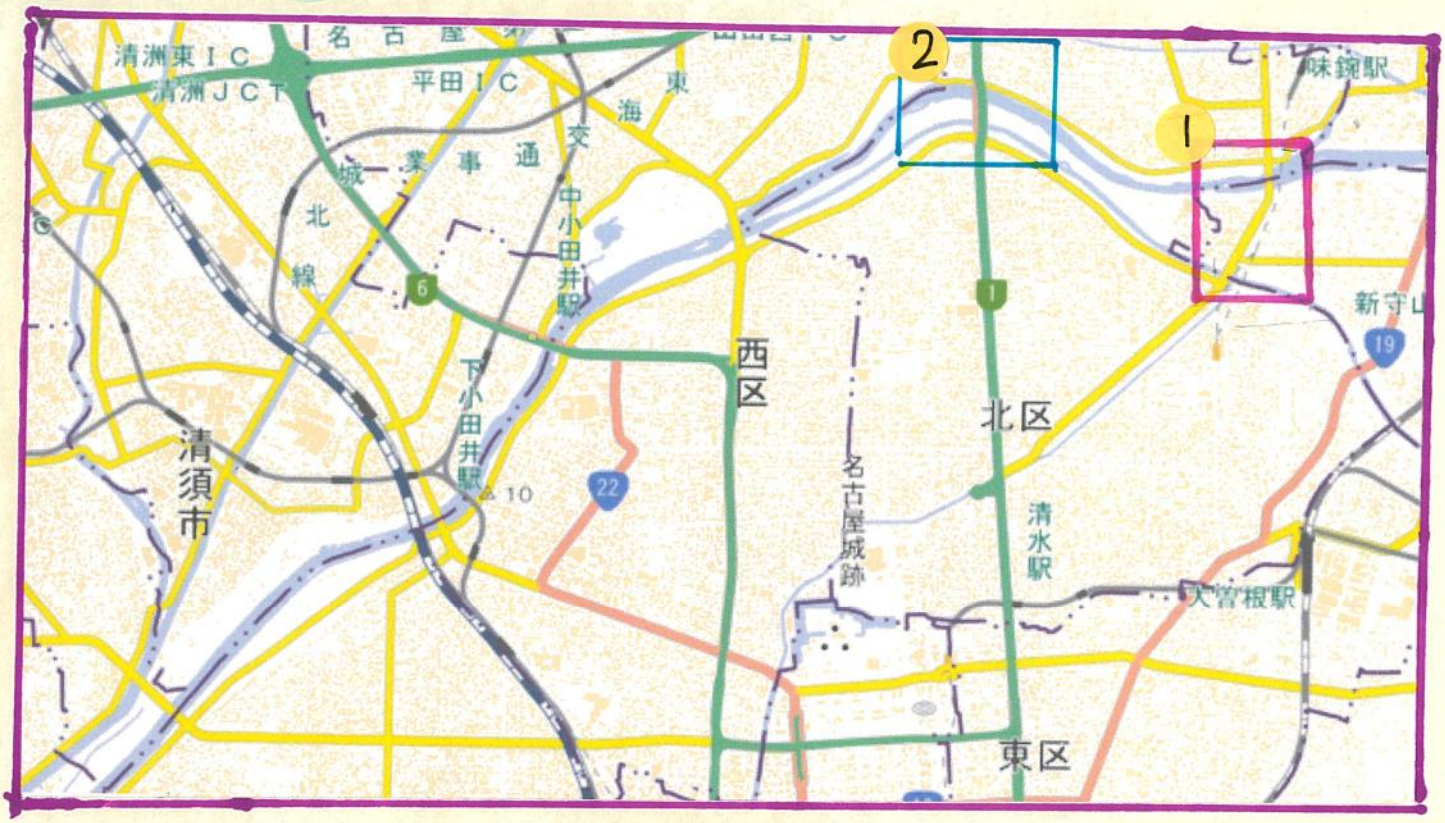


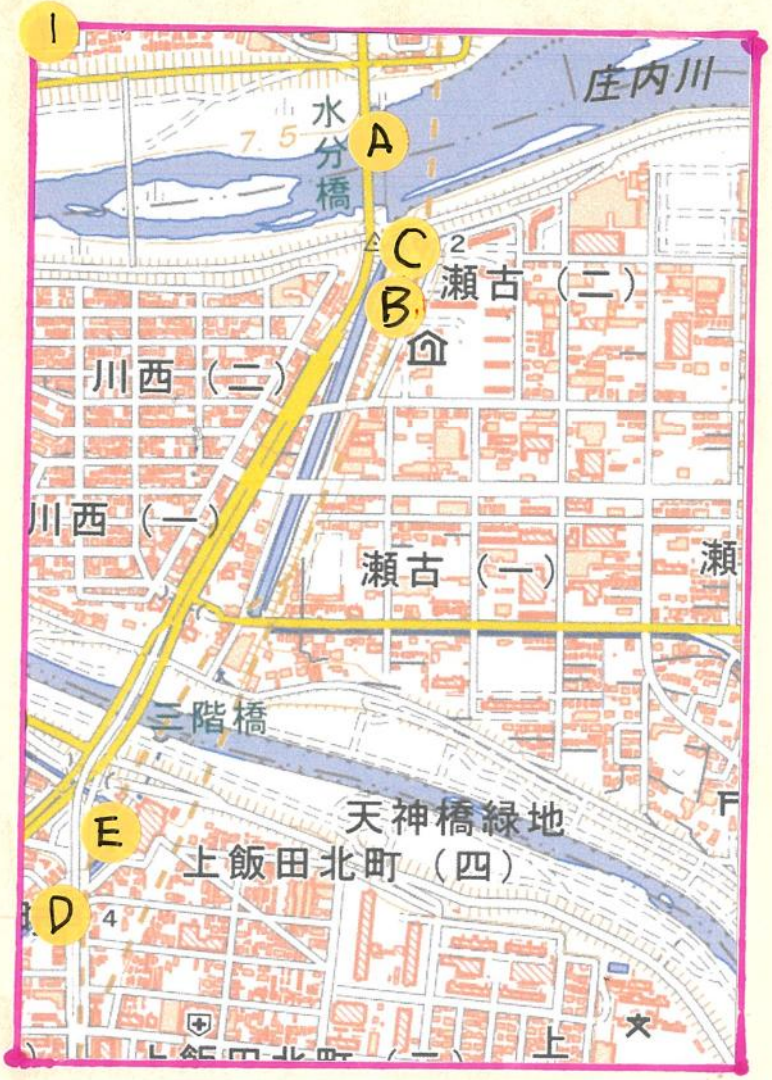
水利使用標識	
河川名	一級河川 庄内川
許可年月日	国土整水第1-05号 令和元年12月24日
許可期限	平成31年 4月1日～ 令和11年 3月31日
許可権者名	国土交通省 中部地方整備局長
水利使用の目的	工業用水
取水量	1日最大取水量 119,600㎥/日
取水施設管理者	王子製紙株式会社 春日井工場
所轄事務所名	庄内川河川事務所 (電話　　番)



庄内川の水は近くにある工場でも工業用水として使われている。

中流2


2
1
清洲東IC
清洲JCT
名古屋
平田IC
東海
交通
事業
城北線
中小田井駅
下小田井駅
△10
清須市
西区
北区
東区
名古屋城跡
清水駅
大曽根駅
新守山
味鋺駅
6
22
19


1
庄内川
水分橋
A
C
B
瀬古（二）
川西（二）
川西（一）
瀬古（一）
瀬
三階橋
天神橋緑地
上飯田北町（四）
E
D
F
上飯田北町（一）
上
大







水分橋

みずわけばし

1 A 庄内用水頭首工（とうしゅこう）



頭首工とは

川の水をせき止めて用水路に水を取り入れる施設である。

庄内用水頭首工では庄内川の水を取り入れて堀川に流している。

1 B 瀬古の井戸



住宅地の中にコンクリートの大きな建物があった。これは瀬古の井戸と呼ばれている。直径6m高さは3mもある



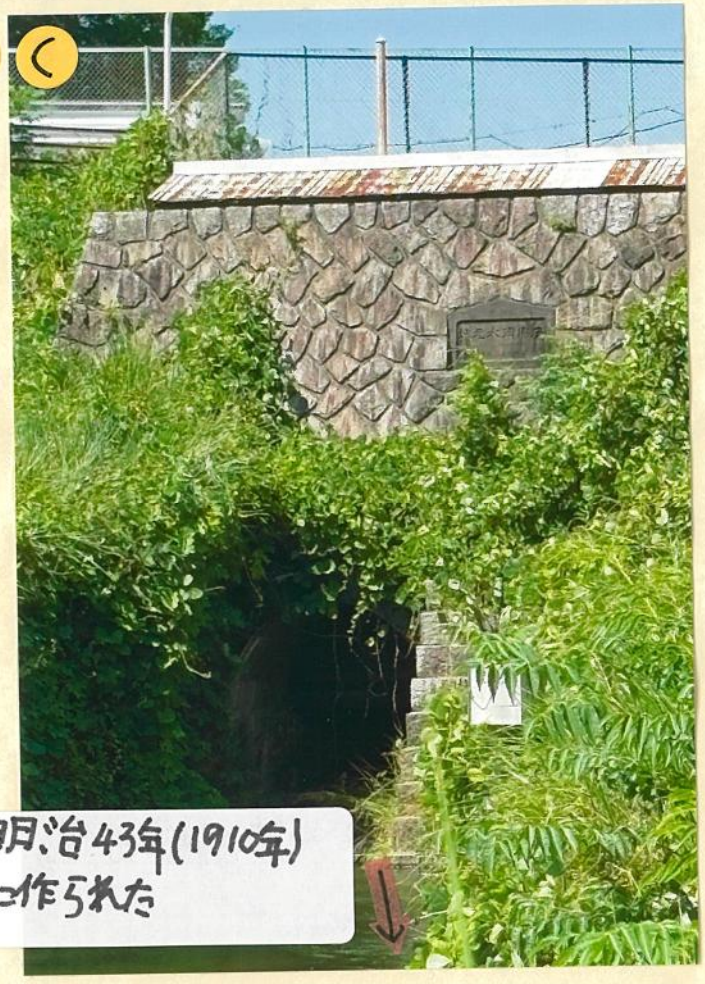
堀川

戦後庄内川から水を取っていた庄内用水が水不足になったため、庄内川に近い、この場所に巨大な井戸を掘り、伏流水という地中を流れる水を庄内用水に流しこんだ。この井戸もいつしか使われなくなり放置されていたが今ではきれいな井戸水を流すことで堀川の環境維持に役立っている。

https://horikawa-navi.com
堀川ナビより

庄内用水 元杁樋門
もとあけひもん

1 く



明治43年(1910年)に作られた

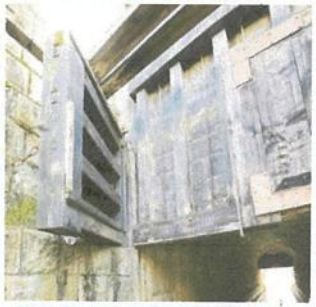
頭首工で取りこんだ水をこの樋門を通して、堀川や庄内用水に流していた。昭和63年に新しい樋門が作られてゲートが上げ降ろしされることはなくなったが庄内川から取り入れた水が今もこの樋門の中を流れて都心へと送られている。



ふだんはゲートの開閉で取水する量をコントロールし、大雨で庄内川が増水したときにはしっかりと閉じて、人々が暮らす所へ水が浸入しないようにする。



鼓輪状のハンドル奥に傘歯車
中央下部に太い棒ネジ



上下スライドゲートは途中まで引き上げ
観音開きゲートは左側が開いた状態



堀川ナビより

御用水跡

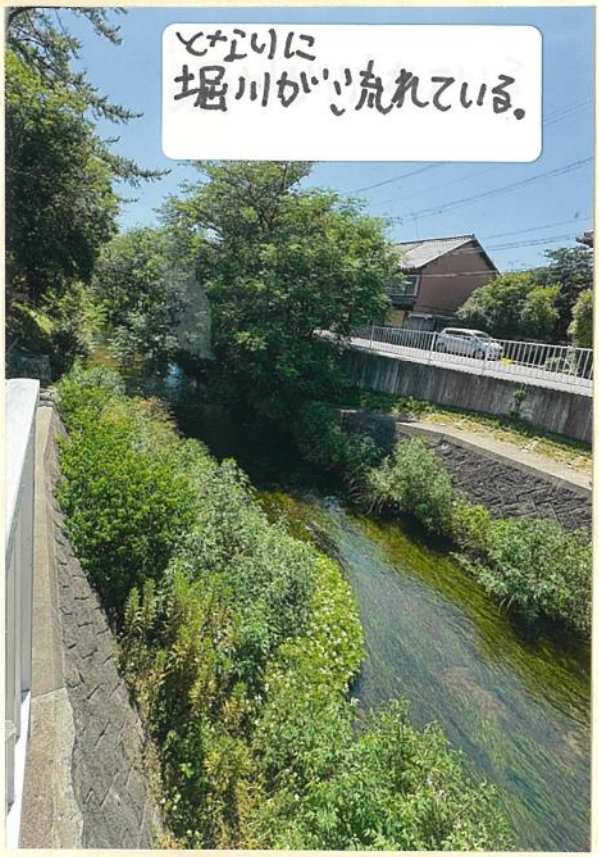
1 D

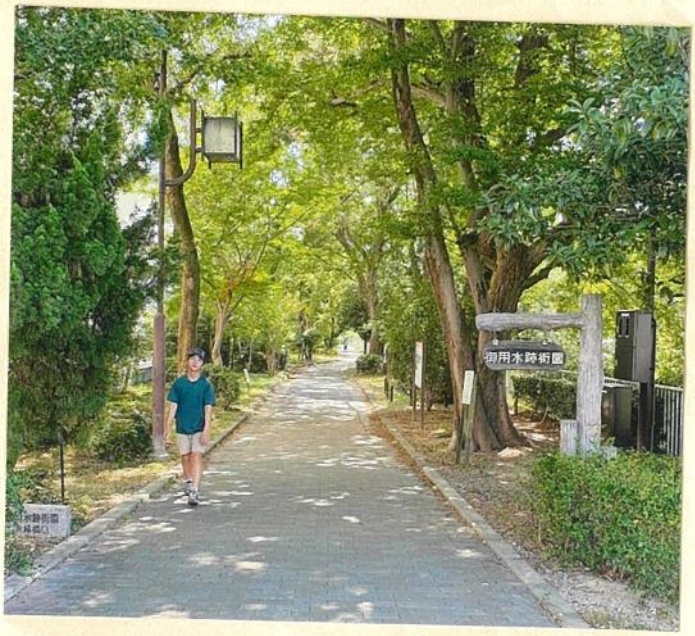






名古屋城のお堀には水を引く水路はなく自然の湧き水などで満たされていたが湧水も減ってきたため、御用水が開削されて名古屋城のお堀に入るようになった。今では御用水は廃止され埋められて、街園に整備された。





1E

矢田川伏越
ぜ ぎ がわ ふせこし



伏越(ふせこし)とは川が川の下をくぐって立体交差すること。庄内川から取り入れた堀川は矢田川の下にトンネルがあってその中を流れて矢田川を通りぬける。

1E

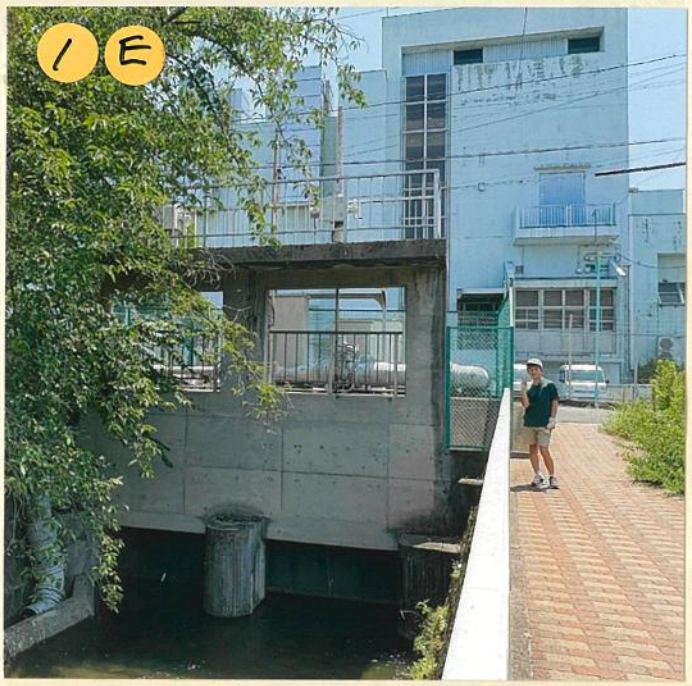
三階橋ポンプ所



この近くの矢田川にかかる「三階橋」の名前は一番下にある伏越が1階、その上の矢田川が2階、その上にかかる橋が3階で、「三階橋」と名付けられた。

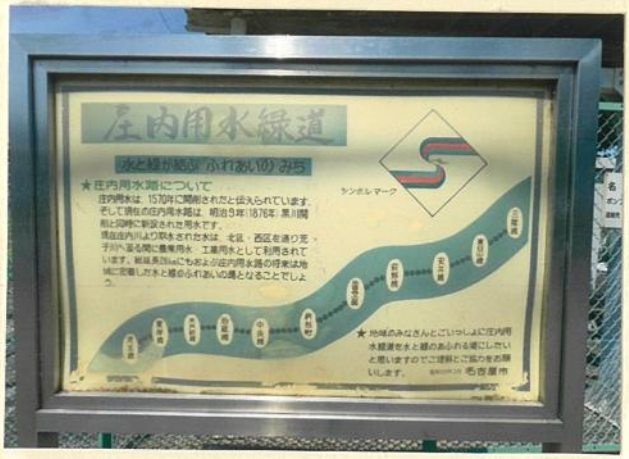


庄内用水分水門



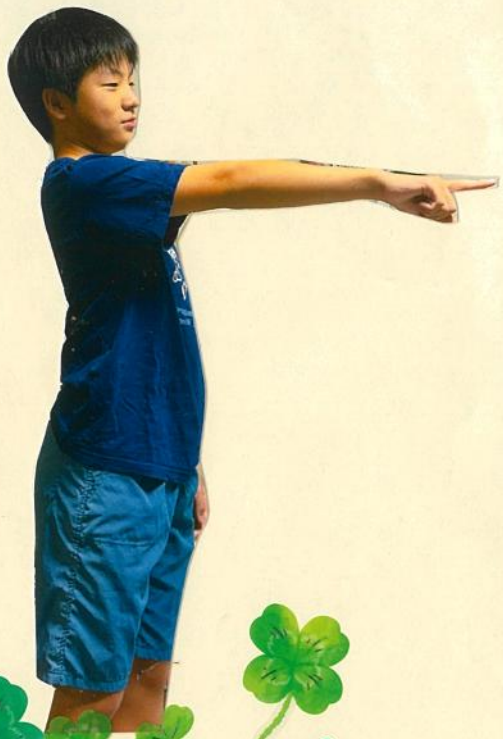
昔は分水池があり5か所に分水していた。ほは三階橋ポンプ所の中で、庄内用水と堀川へ分水されている。

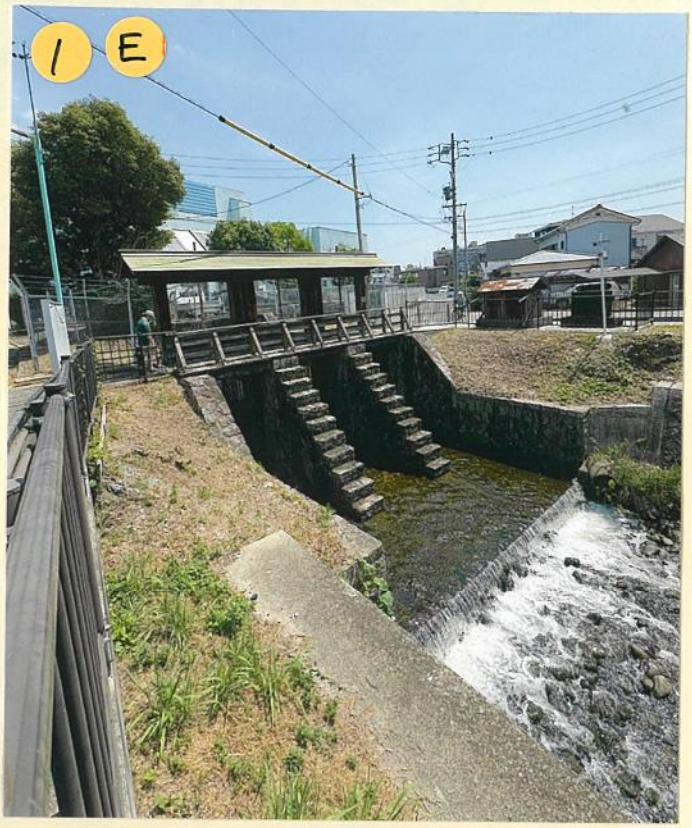




「庄内川より取水された水は、北区、西区を通り荒子川へ至る間に農業用水・工業用水として利用されています。」

黒川樋門





庄内川から用水を引くために
つくられたもので、矢田川の下
をくぐった水は樋門を通って黒川
へ流れていく



天然プールの石碑



天然プールの石碑

かつてこの地には明治九～十年の黒川開削の時に造られた池があり、ここより黒ボク庄内用水・御用水・志賀用水・上飯田用水に分水していた。いつの頃からか、この池は「天然プール」と呼ばれるようになり、たくさんの子供たちが水遊びに集まり、水泳や魚釣りなどの思い出を残していった。百年にわたり人々に愛されてきたこの「天然プール」も昭和五十二年の三階橋ポンプ所建設により姿を消し、今は明治末期築の石組樋門が、わずかに昔をしのばせている。

名古屋市

昭和五十八年八月



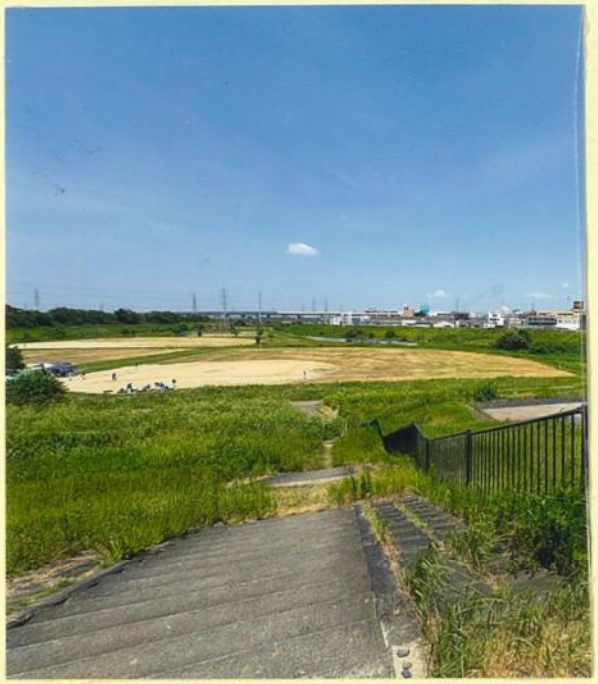
洗堰とは堤防の一部を切り下げ、増水時に川の外へと水を逃がす仕組みを持つ堰のことである。この洗堰は庄内川の洪水による被害から左岸にある村々や名古屋城を守るため、江戸時代に作られたものである。











洗堰の北側は遊水地になっていて、野球のグラウンドやテニスコートがあった。洪水時には、洗堰をのりこえた水がこの遊水地に流れこむようになっている。

ここよりも下流の川沿いに庄内緑地公園がある。そこは小田井遊水地を利用した公園である。



ヨシ(アシ)
イネ科の植物で河原や湿地に生える。
ヨシが集まってできた原っぱをヨシ原という。



下流　河口



下流では潮の満ち引きのえいきょうを受けてりの水位が上がったり下がったりする。



明徳橋

河口に近づいてきた。川幅は広くて深い。庄内川の向こうに新川が流れている。

川原にはヨシがたくさん生えていた。

1



藤前干潟

2



河口には藤前干潟があった。干潮時行ったので干潟が現れていた。

干潟とは？
潮が引いたときにできる砂や泥がたまったところでプランクトンや魚・貝などたくさんの生物が生息している。

名古屋では藤前干潟をごみの埋め立て地にする計画があったが自然保護のための市民の活動により計画は中止になった。

2 稲永ビジターセンター







藤前干潟は魚やカニなどのエサが豊富で多くの渡り鳥がやってくる。ラムサール条約(特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約)に登録されている。



干潟の生き物が水をきれいにしてくれている。





干潟に来た渡り鳥がえさを食べる時に間違えて釣り針や釣り糸をのみこんでしまい命を失ってしまうこともある。

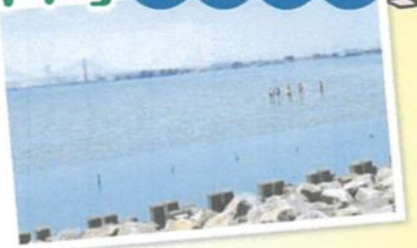




知っておきたい 藤前干潟 まめ知識

ごみの埋め立て予定地だった!?

20世紀の末、名古屋市ではごみの量が増え続け、「このままだと埋め立て場所がなくなってしまう」と問題となりました。その時、ごみ埋め立て場の候補になったのが藤前干潟です。しかしそこは、渡り鳥の重要な中継地。自然保護の流れに応じ、自然を守ろうという市民の皆さんの声などによって、計画は中止されました。それ以来、市民・事業者・行政が協力して、ごみ減量に取り組み続けているのです。





国際的に重要な渡り鳥の中継地

藤前干潟はラムサール条約に登録された国際的にも重要な湿地です。ラムサール条約とは、重要な干潟や湿地とそこにすむ動物や植物を世界のみんなで守っていこうという約束のこと。1971年にイランのラムサールという町で行われた話し合いで決められたことからラムサール条約と呼ばれています。藤前干潟は2002年11月に登録されました。



名古屋市野鳥観察館

TEL:052-381-0160
交通:あおなみ線「野跡駅」で下車、徒歩15分
市バス「野跡駅」で下車、徒歩15分

環境省稲永ビジターセンター

TEL:052-389-5821
交通:あおなみ線「野跡駅」で下車、徒歩15分
市バス「野跡駅」で下車、徒歩15分

環境省藤前活動センター

TEL:052-309-7260
交通:三重交通バス(サンピーチ日光川行き)
「南陽町藤前」で下車、徒歩15分

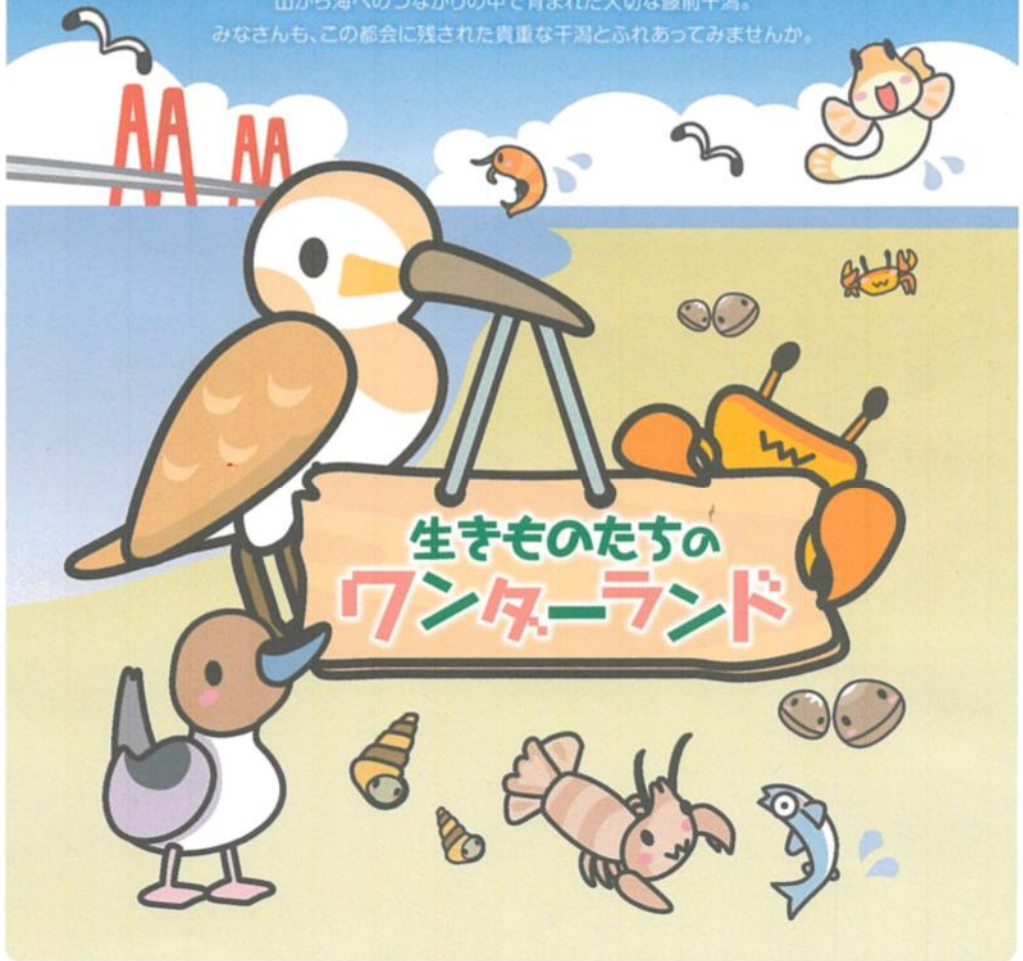
【3館共通】
■開館時間:9:00~16:30
■休館日:毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)
第3水曜日(祝日の場合は第4水曜日)
年末年始(12月29日~1月3日)
■入場料:無料
(団体利用については事前予約が必要です)

発行 名古屋市環境局環境企画課
〒460-0008 名古屋市中区栄一丁目23番13号 TEL:052-223-1067 FAX:052-223-4199

このパンフレットは古紙パルプを含む再生紙を利用しています。 平成31年3月発行

ようこそ!!! 藤前干潟へ

名古屋の南西部にある藤前干潟は、魚やカニなどたくさんの生きものが暮らすワンダーランド!
地球を南北に旅する渡り鳥たちがエサを食べたり、休憩をしたりする大切な場所でもあります。
岐阜の夕立山などから流れ出た水は、庄内川、日光川、新川を通って、
河口の藤前干潟から伊勢湾へと注ぎます。
山から海へのつながりの中で育まれた大切な藤前干潟。
みなさんも、この都会に残された貴重な干潟とふれあってみませんか。



藤前干潟 四季の自然&見どころMAP

藤前干潟で見られる生きものは、季節によっても変わります。その季節ごとにどんな生きものがいて、どんな見どころがあるのか、分かりやすく地図にまとめてみました。

さあ、この地図を持って藤前干潟を探検してみよう!

春 だんだんと暖かくなってくのに合わせて、海の水が引き、干潟が広がります。春の日差しにキラキラと光る水面を吹き渡る風が心地よく、渡り鳥ウォッチングをするのには、最高の季節です。

夏 干潟の生きもの観察にぴったりの季節です。潮だまりの石の下にはどんな生きものがいるのかな? 干潟の表面にできた大小の穴は、どんな生きものが作ったの? 答えは自分の目で見つけてみましょう。

秋 さまざまな渡り鳥たちが、南半球への旅の途中に羽を休めに立ち寄ります。「藤前干潟クリーン大作戦!」に参加して海岸を少しでもきれいにしませんか。

冬 夜に大きく干潟が出るようになるこの季節。鳥たちは、夜の闇の中でもエサを食べています。鳥たちが冬を越すために、藤前干潟はとても大切な場所なのです。



藤前干潟で出会える生きもの


ハマシギ


トウネン


コアジサシ
絶滅危惧種


ヒドリガモ


カワウ


シロチドリ


ミサゴ
撮影者:山部学


チュウシャクシギ
撮影者:高橋茂男


トビハゼ
撮影者:渡加恵容
絶滅危惧種


ヤマトオサガニ
撮影者:松本美朝


アナジャコ


ヤマトシジミ

守ろう!干潟のマナー

干潟に入る前に

干潟は渡り鳥やカニなど、生きものたちと触れ合える楽しいところですが、危険もあります。藤前干潟に入りたいという人は、必ず「藤前活動センター」(詳しくは裏面参照)におたずねください。

生きものたちの気持ちを考えて

干潟は生きものたちのすみかです。そっとおじゃまする気持ちで入りましょう。また、野鳥にエサをあげてはいけません。釣りをする時は、釣り糸などをそのままにせず、必ず後片付けをしましょう。

干潟で注意すること

干潟の中は気をつけて歩きましょう。泥の深みに足をとられたり、カキやフジツボで足を切ったりすることがあります。また、潮が満ちてきてとり残されないように注意しましょう。

※干潮時間を調べてから干潟に行くようにしましょう。
※絶滅危惧種は「レッドデータブックなごや2015(名古屋市)」の評価によるものです。



堤防を通っていたら、護岸整備や
堤防をより水害に強い構造に
するための工事をしているところ
があった。



まとめ

上流

・山の間を流れている。
・岩や大きく角ばった石が多い
・場所によっては流れが速い
〈見つけたもの〉
王野えん堤、用水路、水力発電所

中流

・平地で市街地を流れていて広い、河川敷がある。
・こぶしくらいや小さめの丸まった石が多く中州や自然堤防があったりした。
・流れはそんなに速くなさそう
〈見つけたもの〉
樋管や樋門、取水堰、取水口、ポンプ場
洗堰、遊水地、グラウンド、テニスコート
畑、ヨシ(アシ)原

下流

・市街地を流れている
・小さい石や砂や泥がある
・深くてゆったり流れている感じ
〈見つけたもの〉
樋門、干潟、ヨシ原

庄内川をめぐって気付いたこと

・上流、中流、下流で、川の幅や流れの速さなどが違っていた。

・中流、下流の川原にはヨシ原があった。

・川の右岸と左岸で市区町村で分かれているところがあった。

・広い河川敷にはグラウンドや公園があってうまく使われている。

・取水堰や樋門などがいろいろなところにあって庄内川の水が、農業や工業用水水力発電などに使われていて、人々のくらしに役に立っている。

・堤防や洗堰、遊水地など川のまわりを水害から守るために昔からいろいろな工夫がされている。

・ヨシ原や干潟は生き物が豊富にいるから大切にしていきたい。




WAGONS